

9月ゼミ宿題回答の手引き

1. 9月ゼミの宿題内容

9月ゼミの宿題は、端的に言えば、次のような内容である。すなわち、論文づくりにおいて論証するとは具体的にどのようなことであるか、事例により示せ。また、論証はどのようにしたらできるかも説明せよ、というものである。

2. 9月宿題に関する背景説明

2012年度のゼミ宿題は、論文づくりのステップあるいはプロセスに沿う内容にしてきた。これにより、ゼミ宿題をこなすことで、ゼミ生には論文づくりの力が自ずとつくように狙った。そこで、そうした意図がどこまで達成されたかをみるためにも、過去の宿題テーマについて振り返っておこう。そうすると、論文づくりの基礎知識を与え、導入的な内容の4月ゼミ宿題は措くならば、5月ゼミ以降の宿題テーマは次のようなものである。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ①調べる方法とその意味 | 5月宿題 |
| ②構成をどう行うか | 6月宿題 |
| ③テーマのとらえ方 | 7月宿題 |
| ④論証とは何か、論証をどう行うか | 9月宿題 |
| ⑤論文で文章を書くとはどのようなことか | 10月宿題予定 |
| ⑥論文の評価をどう行うか、自己評価、他者評価の方法 | 11月宿題予定 |

ゼミ生は、9月ゼミ宿題がこうした流れの中にあるテーマだということをもう一度よくよく振り返り、宿題の回答にあたってほしい。

3. 論証についてのイメージを持つための解説

ここで4月以降のゼミ生の宿題に関する回答状況をみていると、上の説明だけではまだ十分でないと思われる。これでは、論証についての宿題回答の入口にも立てないかもしれない。こうした判断となるのには、ゼミ生の大方が論文を書く上での前提条件を欠いていることが与って大きい。しかし、これだけでなくもう一つ問題がある。それは社会人院生一般にいえることであるが、ゼミ生の現実が研究の経験を実体的、体感的にも欠落することである。したがって、論証について自分の言葉で自分の問題に即して語るのはますますむずかしくなる。このへんのことを踏まえ、論文における論証とはどのようなものか、なるべくやさしいかたちの解説を付け加えることにしよう。

このため、わかりやすい手がかりから問題を出発させる。いま論証の中身は一旦措くとして、それはどこで生まれるかを問う。これなら答えはかなり容易になる。そうすると、それは問いと答えの応答プロセスから生まれてくるといえる。そして、こうした応答プロセスの中で、問いの中にある疑問や問題設定が適切に解決されたり、因果の関係を明確にしたりする。あるいは、解決の仕方の正しさを方法的に裏づける。こうしたことができたとき、論証がなされたということになる。

ここで、問題解決の仕方の正しさを裏づける方法をみると、論文における問いは自らが立てるものなので、そこにはさまざまなものが考えられる。そうではあるが、その中で比較的典型的な方法をあげてみれば、次のようなことがある。①データ化、②数値化・指標化、③因果関係の析出、④相関関係の明確化、⑤傾向の掘り起こし、トレンド性の指摘、⑥理論的枠組みの適用、⑦パターン化による問題整理、⑧図式・図解化の適用による問題整理と解決、⑨ケース的検討による教訓の抽出、⑩事例の収集と整理による共通原則的なものの抽出、⑪比較・類推手法の適用、⑫個別証拠の積み上げによる状況証拠的なかたちの例証、⑬事実証拠の積み上げと論理の補完の組み合わせ、⑭事実的なもの、新知見的なものの掘り起こしと提示、などである。

4. 新聞スクラップにみる論証例

さらに、3の論証に関する説明をもう一つ実感的に伝えるため、2つ、3つの新聞記事スクラップを添付しよう。これは新聞記事の一節であるので、厳密な意味でいう論証ではない。しかし、論証ということに関するイメージを得るには十分なものである。

5. 対象者

今回の宿題回答の対象者は、M2、M1、学部生とする。その他、修了生の回答参加もむろん歓迎される。

6. 提出方法

宿題は、メーリングリストにより提出する。ワードファイルである。

ファイル名は「2012年9月ゼミ宿題（提出者の名前）」にて統一する。

7. 提出期限

9月11日（火）